

立川市立若葉台小学校

学校だより

令和3年4月12日発行

校長 井土 満
〒190-0001
立川市若葉町1-13-1
TEL 042-536-3971
FAX 042-534-6943
HP <http://www.tachikawa.ed.jp/es21/>



新校舎スタート！

いづち みつる
校長 井土 満

いよいよ新校舎での若葉台小学校が始まります。3月末の大引越しも無事終わりました。若葉台小は、平成30年4月に、地域や保護者の皆さん、多くの方々の思いや期待を担って、旧けやき台小学校と旧若葉小学校が統合してできた学校です。その思いや期待、学校づくりの理念を端的に表せば、「共に学び共に育つ学校」です。そして、新校舎には、その理念と理念に基づく「思う存分体を動かし、様々な体験ができる学校」「学ぶ楽しさ、教える喜びが実感できる学校」「明日また行きたくなる楽しい学校」「地域をつなぎ、未来を拓く学校」の4つのコンセプトが具現化されています。今年度は、この新しい施設を十分に生かし、開校の理念・コンセプトの実現を目指した教育活動をすすめます。また、新学習指導要領の「主体的、対話的で深い学び」の実現や、GIGAスクール構想など、これからの社会に生きる子供たちに必要な新しい学びも、この校舎で始まります。

それにしても、新型コロナウイルスの感染はなかなか落ち着きません。東京都でも緊急事態宣言が解除されたと思ったら、また今日から「まん延防止等重点措置」が始まり、立川市も市部6市に含まれています。まだまだ、子供たちにとっても、私たち大人にとっても、我慢の日々です。それもこれも、命と健康を守るためです。

世の中には大切なものがたくさんあります。そのどれが大事かは人それぞれの価値観によりますが、私は何よりも大切なのは「命」だと考えます。たぶん、ほとんどの大人はそう考えているはずですし、子供たちも同じだと思います。しかし、私たち大人は、時としてそのことを忘れて、仕事や経済活動、いつかの楽しみのために、無理をしたり、無茶をしたりしてしまうことがあります。今年度も、若葉台小学校では、かけがえのない命や健康を守ることを第一に考えながら教育をすすめます。子供たちだけでなくご家族、地域の皆さんの命、健康を守るために、みんなで気を引き締めながら取り組みましょう。

とはいえ、学校での教育活動は集団活動が多く「密」とはスレスレの生活です。最近の変異株は子供たちにもうつりやすいといわれています。しかし、そのことを恐れるばかりに、すべての教育活動を停止することはあってはならないと考えます。昨年の今頃は、日本中の学校が臨時休業中でした。その時の新型コロナウイルスの知識では、しようがない措置だったのかもしれませんが、今から考えるとバランスを欠いていたようにも思えます。学ぶこと、人と関わりをもつことは、子供たちの生活の一部であり、生きることそのものです。

密を作らない、手洗い・マスクを徹底する、毎日の検温や健康観察に家族で取り組むなどを徹底し、感染リスクを低くしながら、やり方を工夫して子供たちの学びをしっかり保障していくのは、大人の役割です。

新校舎でのスタートは希望にあふれています。新しい友だちや先生との出会いもあります。一方、それは子供たちには大きな環境の変化を強いることにもなります。そういうスタートを切る若葉台小学校の子供たちには、他校の子供たち以上に、いろいろと強く感じる春かもしれません。「春愁ひ(うれい)」という俳句の季語があります。春はウキウキばかりでなく、愁い・憂い(うれい)も含んでいると、昔の人たちも感じてきたことです。コロナ防止・体の健康ばかりではなく、心の健康にも気を配っていきましょう。春に限らずですが、子供たちの表情をよく見、心のつぶやきを聞き取り、不安げな子には声かけをするなど、サポートをお願いいたします。

新校舎を町の拠点とし、「コミュニティスクール」(立川九中学区学校運営協議会)を中心に、学校・家庭・地域が連携し、それぞれが役割を果たしながら、若葉町の子供たちを育てていきましょう。新校4年目、新校舎1年目の若葉台小学校に、皆様の引き続きのご理解とご支援を、よろしくお願いいたします。



4月8日 6年生 新学期準備活動